

研究背景

昨今、様々な空間において音環境の改善による機能性およびニーズの向上が試みられている



疲労負荷を十分に考慮していない音空間が存在する

研究目的

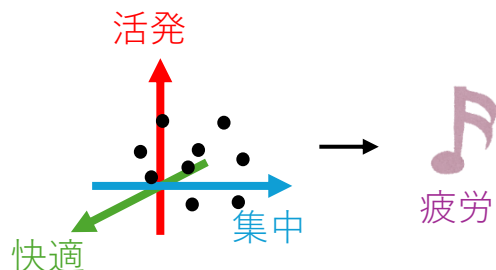
- 音環境が起因した疲労感の評価手法を確立し、疲労感に関連する音の特徴を見出す
- 生体情報を用いて疲労感を評価できるか検討する（人の状態をモニタリングすることが理想）
- 音環境および振動環境が疲労感に与える影響を調査する



研究内容

1. 様々な音の主観評価

- 「快適因子」「活発因子」「集中因子」が疲労感に関連すると仮定し、形容詞対を選定
- 日常で聞く様々な定常音を主観評価



2. 音響特性を変化させた音の主観評価+客観評価

- 疲労感に関連すると考えられる音響特性を変化させ評価
- 客観評価は、脳血流や脈波等を使用

3. 振動環境を考慮した主観評価+客観評価

- 音環境および振動環境による疲労感を評価
- 非振動時と異なる点を探すため、振動の有無以外は2と同条件とする



- 3因子を用いた疲労感の評価手法を確立
- 疲労感の低減につながる音のデザインを提案